

# 平成20年度卒業式

## 学長告示



今日ここに学士課程を修了されたみなさん、ご卒業おめでとうございます。

本学で学部の4年間勉強され、今日めでたくも卒業の日を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げたいと存じます。今日、523名の卒業生の新たな出発に際して、中庭の桜が咲き乱れておりますけれども、桜と一緒にこの喜びを分かち合いたいと思います。みなさんをここまで支えてこられたご家族をはじめとして、また、本学を支えてくださるご来賓の方、本学に暖かいご支援をくださっていらっしゃる多くの方々へ深くお礼を申し上げたいと存じます。

先程、みなさんと一緒に本学の校歌を歌いました。みなさんは在学中に本学の校歌を何回歌われましたでしょうか。

「みがかずば 玉もかがみも なにかせん

学びの道も かくこそありけれ」

宝石は原石をみがきあげた後に、美しい姿を見せてくれます。鏡も汚れては人の本当の姿を写し出すことはできません。学問の道も、日頃の努力を重ねてこそ、画期的な発見につなが

ります。どんなに優れた才能を持っていても、人の一生を通して努力して得られるものにまさることはないと思います。私自身は、51年前になりますけど、本学に入学した時にこの校歌に出会いました。とても短い校歌ですけれども、私のその後の生き方を決めてくれた歌だと思っています。

本学は古い歴史を持っている大学でございます。しかし、みなさんがこの4年間過ごされた間にお茶の水女子大学も大きく変わってきております。

今日初めて、文教育学部にグローバル文化学環の第一期卒業生を送り出すことができたということ大変すばらしいことであると思います。どの学科に属しても広く他の学科の講義がとれ、21世紀の新しい世の中に必要とされる広い教養、広い世界観を学んでいただくことができ、グローバル文化学環の卒業生をここに送り出すことができました。これも本学が変わりつつあるということのひとつの表れであるということですが、グローバル文化学環を卒業された方々は、新しいお茶大の卒業生としていろいろな場面でご活躍されてほしいと思います。

みなさんは本学でたくさんの良き友人、良き師に巡り会えたと思います。今日は卒業式の日で、これから始まる新しい生活への期待に胸を膨らませていらっしゃるって、4年間の時を振り返るようなそんな時ではないのかもしれませんが。私も思い返してみますと、卒業式の日もう次のことをやらなきゃということを感じておりましたので、学長先生がどのようなお話をされたかということ覚えていない悪い学生でしたから、多くを語ってもみなさんは覚えてくださらないかもしれません。ただ私には、卒業後、年月を経るに従ってじわじわとよみがえってきたことがたくさんございます。これはさきほどの校歌のことが一つではございますけれども、一番私にとって本学を卒業した後でも宝となったものは友人でございます。今日この日に一緒に卒業されるみなさんにとっても、





忘れがたいクラスメイトであり、校友としてのつながりは一生続くのではないかと思います。

続いて良き師ですが、先生方が、一人ひとりを本当に良く見てくださっていたと思います。私も卒業アルバムをこの間取り出してみました。もう亡くなられた先生もいらっしゃいますが、一言一言大変すばらしいお言葉を書かせてくださって今も大事にしております。ずっと母校を離れておりましたけれども、つい最近も私の指導教官でいらっしゃった先生からお便りをいただきました。学長になっても先生からお頼りをいただける。うれしいのはこの先生が本学の前身である東京女子高等師範学校の出身であり、そして、私に教えてくださった先生であり、とても厳しい先生でございました。でも、温かく見守ってくださる、いまでもお手紙をいただく、そんな良き先生に恵まれました。

本学にとってうれしいことがございました。7月に本学の卒業生である楊逸さんの芥川賞受賞。楊逸さんは留学生として本学の文教育学部の地理学科を卒業されました。先日、楊逸さんをお招きして講演会を開催させていただき、本学からもたくさんの学生が参加しました。私は楊逸さんのバイタリティー、貧しいなかで常に見失わない、しかし世界を見ている、日本に来て自分の母国を見ている、前向きで、新しいことに挑戦していらっしゃる、その姿に大変感銘を受けました。こういう卒業生を出せたこと、みなさんにとっても良い先輩が本学から巣立っていったことをうれしく思います。また、つい最近でございますけれども、本学の卒業生である吉村美栄子さんが山形県の知事に当選されました。東北地方では最初の女性知事でございます。本学には誇れる卒業生がたくさんいらっしゃいます。

女子大学はリーダーシップを発揮する場所として非常に良い場所だと思います。それは女性同士が切磋琢磨する環境、女性同士がすべての役割をこなす環境であります。私はお茶大

から外に出たときに「お茶大はなんて厳しい大学だ」と思いました。それは、切磋琢磨ということも含めまして、先生方が一生懸命教育をしてくださったからだだと思います。教育といっても決して堅苦しい教育ではなかったとおもいます。それぞれの人が持っている力を伸ばせるような、すばらしい教育をしてくださったと感謝する次第でございます。

みなさんはこれから新しい人生のスタートに立たれることかと思えます。本学は女性のリーダーを育成することを目標に掲げております。リーダーというのは、いろいろな場でのリーダーということです。地域の活動、あるいはご自分の職場などいろいろな所で周囲を変えていっていただきたい。そのためにお茶の水女子大学で教育を受けられたと思っています。

また、私は卒業して、いろいろな場を動いてきましたけれども、行く先々で、本学の卒業生、桜蔭会の先輩方に大変お世話になってきました。この卒業生の力、これも本学にとって非常に大きな財産でございます。本学で教育を受けられたみなさんは、これから世界のどこにいらっしゃっても、本学の卒業生であることを誇りに持って、巣立って行っていただきたいと思えます。卒業生とのネットワークを大切に、これからの生活に踏み出して行ってください。どこにいてもみなさんの先輩、クラスメイトがいるということ、そしてみなさんが世の中に出て、また新しいことを学びたいということがありましたら、いつでも本学に帰ってきてください。そしてなにかありましたら、ホームカミングデイもありますので、母校にお気軽にお立ち寄りいただけますようによろしくお願いいたします。

(抜粋)

## 平成20年度卒業式 学長告示